

|                              |  |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
|------------------------------|--|---------------------|----|--------------------------|------|-------------------|--------|--------------------------|
| 科目名                          | 専門演習 I Seminar I   |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
| 科目担当者                        | 青木 誠弘 AOKI Nobuhiro  |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
| 単位数                          | 4  | 配当年次                | 2年 | 授業形態                     | 演習   | 開講学期              | 通年     |                          |
| 履修学部・学科<br>[区分]              | 法学部・法律学科 [専門教育科目 演習]   |                     |    |                          |      | ディプロマポリシーとの関連     | (3)(4) |                          |
| 授業の概要                        | <p>学問に限らず、物事を本当に理解したと言えるためには、人から教えられたことを理解するだけでは足りない。そのような受け身の理解だけではなく、自ら課題を発見し、調べ、そこで得られた知見を他者に伝達するという積極的な行動をとってこそ、何かを理解したと言えるのである。</p> <p>そこで、専門演習 I から専門演習 III では、主に憲法に関する判例を題材に、そのような積極的な学習を行ってゆく。</p> <p>専門演習 I では、その第一段階として、資料を読み解く能力の訓練を行う。</p> |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
| 授業の到達目標                      | <p>①法学の研究に用いる資料から論点を読み取れるようになること。</p> <p>②必要な資料を探せるようになること。</p>  |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
| 授業計画・内容                      | 1  | 初回打合せ               | 16 | 後期打合せ                    | 2    | 法的三段論法を知る         | 17     | 複数の文献を比べる 1 高田事件 (概要)    |
|                              | 3  | 法的三段論法に法の解釈を組み合わせる  | 18 | 複数の文献を比べる 2 高田事件 (評釈)    | 4    | 判決文の要約を読む         | 19     | 複数の文献を比べる 3 京都府学連事件 (概要) |
|                              | 5  | 憲法判例を読む 1 戸籍法の合憲性   | 20 | 複数の文献を比べる 4 京都府学連事件 (評釈) | 6    | 憲法判例を読む 2 剣道拒否事件  | 21     | 複数の文献を比べる 5 病院長自殺事件 (概要) |
|                              | 7  | 憲法判例を読む 3 北方ジャーナル事件 | 22 | 複数の文献を比べる 6 病院長自殺事件 (評釈) | 8    | 憲法判例を読む 4 津地鎮祭事件  | 23     | 複数の文献を比べる 7 旭川学テ事件 (概要)  |
|                              | 9  | 憲法判例を読む 5 空知太神社事件   | 24 | 複数の文献を比べる 8 旭川学テ事件 (評釈)  | 10   | 憲法判例を読む 6 牧会活動事件  | 25     | 複数の文献を比べる 9 夫婦別姓訴訟 (概要)  |
|                              | 11   | 憲法判例を読む 7 加持祈祷事件    | 26 | 複数の文献を比べる 10 夫婦別姓訴訟 (評釈) | 12   | 憲法判例を読む 8 マクリーン事件 | 27     | 複数の文献を比べる 11 薬事法事件 (概要)  |
|                              | 13   | 憲法判例を読む 9 三菱樹脂事件    | 28 | 複数の文献を比べる 12 薬事法事件 (評釈)  | 14   | 憲法判例を読む 10 幸福追求権  | 29     | 論文購読と論文のつくりの学習           |
|                              | 15   | 前期の総括               | 30 | 1年間の総括                   |      |                   |        |                          |
| 授業外学修<br>(事前学修)              | ・授業の性質上、事前学習は求めない。その分、事後学習に時間を割くこと。  |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
| 授業外学修<br>(事後学修)              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、授業中に配布された資料は理解できるまで読み込むこと (2時間程度)。</li> <li>・毎回、授業中に示された論点について、自身で納得するまで考察すること (1時間程度)。</li> <li>・毎回、授業中に終わらなかった課題は自宅学習で終えること (1時間程度)。</li> </ul>   |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
| 成績評価方法・<br>評価比率・到達<br>目標との対応 | 成績評価方法   |                     |    |                          | 評価比率 | 到達目標との対応          |        |                          |
|                              | 授業中に出题する問題に積極的に回答できたかどうか (正解・不正解は問わない) をもとに評価する。   |                     |    |                          | 100% | ①、②               |        |                          |
| 成績評価基準                       | <p>秀： (評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優： (評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良： (評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可： (評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可： (評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合</p>                                |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
| 教科書                          | 指定しない。必要な資料は適宜指導する。  |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
| 参考文献                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選 I』 (第 7 版) 有斐閣</li> <li>・長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選 II』 (第 7 版) 有斐閣</li> </ul>  |                     |    |                          |      |                   |        |                          |
| その他                          | 学生の理解の度合いや最新のニュースなどを反映して予定が変わることがある。   |                     |    |                          |      |                   |        |                          |